

低コストで省力的安定生産ができる伊勢茶スマート営農体系の確立(亀山市)

取組主体：伊勢茶スマート栽培推進協議会 取組期間：令和2年～ キーワード：営農管理ツール、センシング

1 産地の概要

<産地の現状・課題>

- ・生産者が減少し、担い手への茶園集積が進んだことで経営規模拡大
- ・販売を強化するため、複数の生産者が実需者と連携し、産地におけるGAP認証を取得
- ・現状、防除や摘採、かん水などの茶園管理の要否やタイミングは、茶園巡回による生産者の経験や勘に基づき決定しており、大規模化に伴って巡回に労力と時間を要する。
- ・センシングによるデータを活用した最適な作業の判断が必要
- ・生産履歴は各自が各々の作業日誌を活用しており、営農管理ツールを活用したデジタル化による作業管理労力の削減が必要
- ・また、生産履歴等電子データの実需者との共有及び分析への活用

2 取組体制

<構成員と役割>

- ・生産者（役割：実証圃設置、圃場管理、効果検証）
- ・JA鈴鹿（役割：実証支援）
- ・カワサキ機工株式会社（役割：ドローンによるセンシング導入支援）
- ・株式会社まるは茶業（営農記録ツール実証）
- ・市、県（亀山市、中央農業改良普及センター、農業研究所、農産園芸課）（役割：事業実施への助言、全体運営、連絡調整）



センシングツール現地検証の様子



圃場に設置したセンサー

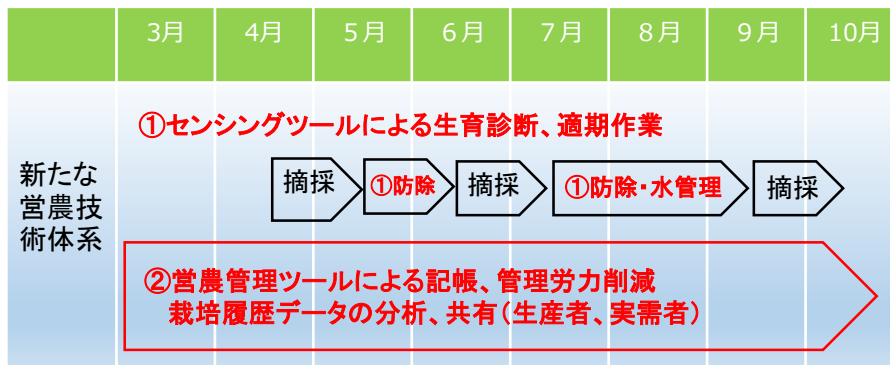
3 新たな営農技術体系の確立に向けて

<目指す産地像>

センシングや営農管理ツール等を活用し、防除時期判断のための見まわり作業や、記帳及び実需者との共有作業を省力化した産地



- ①センシングツールの導入
- ②営農管理ツールの導入



<新たな営農技術体系の効果（検証結果）>

- ・定点カメラによる生育状況のセンシングデータに基づき、最適な作業計画を立てることが可能
- ・営農管理ツールを用いた記帳は、入力に約3分かかり手書きと同程度の時間を要したが、栽培履歴データの検索や分析、実需者との共有作業の簡素化が可能